団体名：特定非営利活動法人　難民を助ける会
事業名：カルフール地区における障がい児の就学支援事業
提出日：2014 年 12 月 2 日

添付資料⑥：支援対象校の写真

写真 1：支援対象校ユニオン・デ・ユニヴァーシテール・ポルトープランス校（CUUP）。校長によると、障がいがあると見受けられる児童が多く在籍するが、特別教育の訓練を受けた教員はいないため、障がいに配慮した教育が行われていない。

写真 2：支援対象校ヴィクトール・デージェー・バロレット校で夏季講習会を受ける子どもたち。同校の全児童数は 800 名近いが、そのうち学校側で障がい児と認識しているのは身体障がい児 3 名のみ。

団体名：特定非営利活動法人　難民を助ける会
事業名：カルフール地区における障がい児の就学支援事業
提出日：2014 年 12 月 2 日

写真 3：支援対象校デュマセ・エスティメ校。現在、学校が把握する限り、この学校に通学する障がい児はいない。ただし、この地域で活動する JOSE（現地 NGO）によると、同校の周辺だけですでに 14 名の未就学障がい児が確認されている。

写真 4：支援対象校リシェルシュ・デュ・サボワール校。現在、知的障がい児 9 名と身体障がい児 2 名が通学しているが、障がい児教育について知識のある教職員がおらず、障がいに配慮した授業が実施されていないことから、障がい児の留年が多い。

団体名：特定非営利活動法人　難民を助ける会
事業名：カルフール地区における障がい児の就学支援事業
提出日：2014 年 12 月 2 日

写真 5：現行事業「カルフール地区における衛生環境改善及び衛生啓発事業」において、当会現地スタッフが、支援対象校児童に衛生に関する絵の説明をする様子。申請事業では、障がい児の家庭や地域住民のほか、就学中の健常児に対しても、障がいへの偏見や差別をなくすための啓発活動を実施する。

写真 6：本事業の現地協力団体 JOSE が実施する、障がい児と障がいを持たない子どもの交流会の様子。ゲーム等のアクティビティを通じ子ども同士が交流を深める中で、未就学障がい児が学校生活を疑似体験でき、就学に繋がる事例も見られる。本事業では、対象校の教職員や児童、周辺地域の住民に対し、このような交流会を含む啓発イベントを実施する予定である。